

決算説明資料(2018年3月期第1四半期)

atect

株式会社 アテクト

第1四半期業績概要

売上高:9.9%増収、経常利益27百万円増

- ・PIM事業の売上回復と半導体資材事業の需要増により9.9%の増収
- ・前第1四半期に発生した為替差損(△56百万円)に対し、当第1四半期為替差損は△2百万円に縮小、経常利益・四半期純利益については黒字に転換

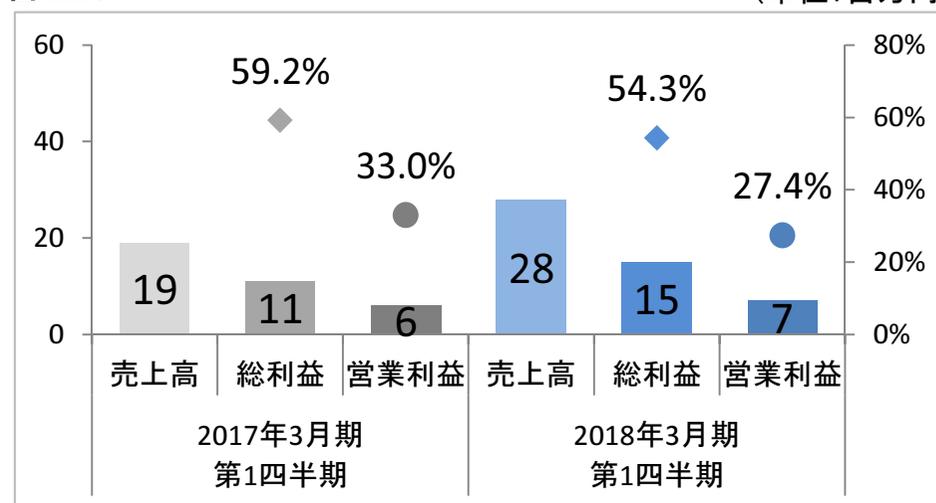
(単位:百万円)

	2017年3月期 第1四半期	2018年3月期 第1四半期	増減額	前期比
売上高	596	655	59	9.9%
営業利益	38 6.4%	30 4.7%	-7	-20.1%
経常利益	-8 -1.5%	18 2.8%	27	
第1四半期 純利益	-8	13	22	

セグメント別業績:PIM事業(47.4%増収・22.3%増益)

(単位:百万円)

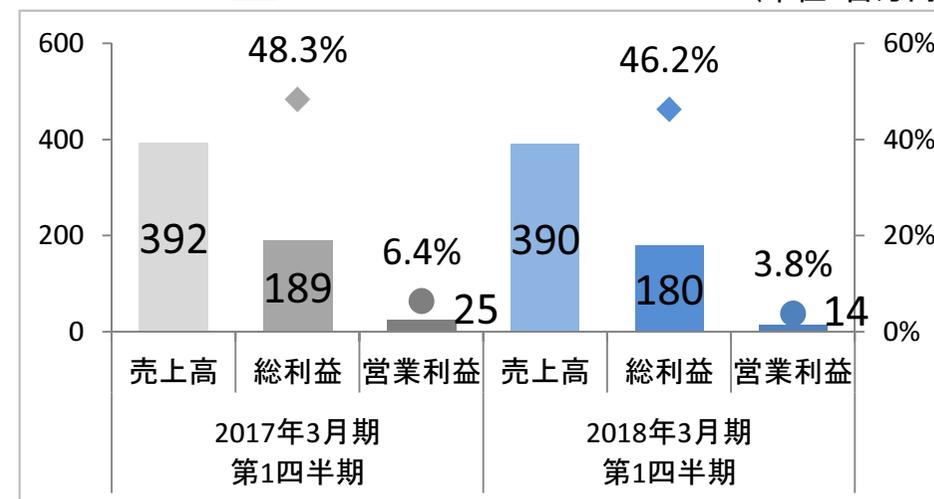
売上高・総利益額共に大きく改善したが、販売管理費(人員及び研究開発費等)の増加により営業利益率は悪化



セグメント別業績: 衛生検査器材事業 (0.7%減収・41.4%減益)

(単位: 百万円)

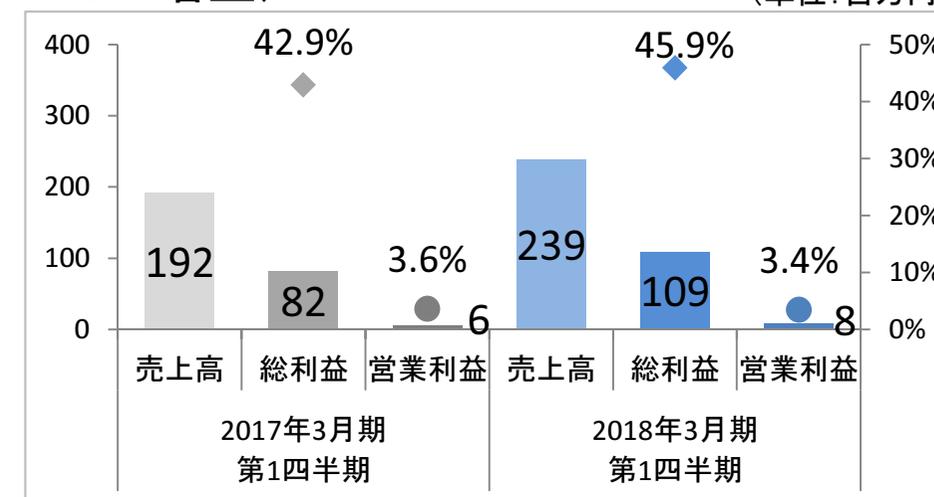
売上高0.7%の微減となったが、総利益額は高水準を維持、営業利益においてはグループ連結販売管理費用の売上高配賦比率により41.4%の減益



セグメント別業績: 半導体資材事業 (24.1%増収・17.9%増益)

(単位: 百万円)

4Kテレビの普及率拡大、4Kテレビ対応高品質スペーサーテープによるシェア拡大により24.1%の増収・20%の数量増、円安基調により総利益率3%改善



49期及び今後の重点施策と第1四半期進捗

PIM事業重点施策

- ・自動車用ターボ部品・セラミックス球の事業化
- ・ノズルベーン(ディーゼル用:HK30)量産技術確立
- ・セラミックス球量産技術確立、ポア(空泡)レス
- ・ガソリンVG用ノズルベーン開発・商品化(新素材:1000°C仕様)
- ・高熱伝導率(70~100W)窒化珪素ヒートシンク商品化

進捗状況

- ・2017年8月1日、世界最大手のターボチャージャーメーカーであるボルグワーナー社を主要取引先とするMMT社とノズルベーンをはじめとするターボ部品数点の供給に関する基本合意書(MOU:Memorandum of Understanding)を締結
- ・次世代ガソリンターボ(ガソリンVG:1000°C仕様)について国内大手ターボチャージャーメーカー向けに具体的案件が進行中
- ・セラミックスボールベアリング、パワーデバイス用ヒートシンク等の商品化への体制を強化

49期及び今後の重点施策と第1四半期進捗

衛生検査器材事業重点施策

- ・確実なプラス成長
- ・架電件数拡大に向けた新たな仕組みづくり→営業体制の強化

進捗状況

- ・滋賀工場に新たに導入した社内ITシステム部門が独自に開発したコンピューターシステムを有効活用し、架電件数の拡大に努める
- ・大幅なプラス成長を達成すべく、事業部の組織体制を刷新し強化

半導体資材事業重点施策

- ・売上10億円越え、総利益率50%回復
- ・4Kテレビ普及に伴う更なるシェア拡大と徹底したコスト低減

進捗状況

- ・当社スペーサーテープを2倍使用する4Kテレビの需要拡大期に入り約20%の数量増、今後もさらに堅調に伸長の見込み
- ・韓国、日本両拠点での生産体制強化と設備改善による合理化で総利益率50%を目指す

【免責事項】

当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、当資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。しかしながら実際には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、当資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいりますが、当資料記載の業績見通しのみを全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、転送等をおこなわないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ

株式会社アテクト 事業管理部 IR担当 TEL:0748-20-3400 E-mail:ir@atect.co.jp